「2019年～2021年　研究１年次」

〈研究主題〉

育成を目指す資質・能力と知的障がい教育の学び

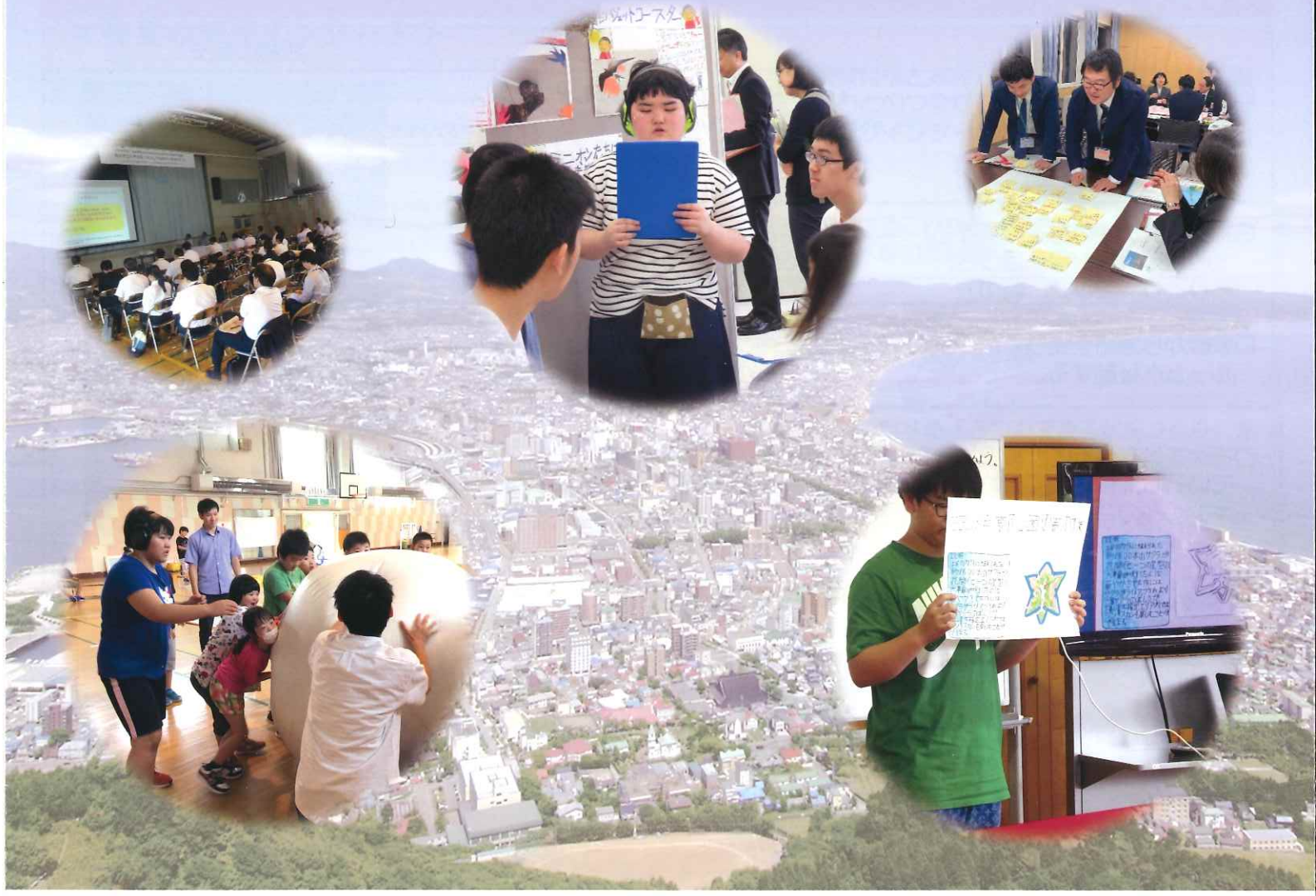
～これからの函館で自分らしく生きるための学びのデザイン～

※ここでの「函館」とは，函館市，北斗市，七飯町などの函館市を中心とする地域を指す

本研究について

学習指導要領の中では，今後，生産年齢人口の減少やグローバル化の進展，絶え間ない技術革新等により，予測が困難な時代が迫っているとされています。

本研究では，将来子どもたちが活躍する地域を見据えて，学校教育目標，地域の実情，今日的な動向を踏まえて，本校で育成を目指す資質・能力を明確にし，主体的・対話的で深い学びの授業づくりが重要であると考えました。



北海道教育大学附属特別支援学校

本校の研究の現状と課題

【前年度の課題】
- 小，中，高の系統性を意識した授業づくり
- 各教科等を合わせた指導の在り方の検討
- 横断的な学習内容の組織化

【本校の研究で目指すもの】
- 子どもたちが変化の激しい社会を生き抜くために，本校で育成を目指す資質・能力の明確化
- 子どもたちが主体的・協働的に学ぶ授業づくり

研　究　計　画

研究年次	研究内容
1年次 令和元年度	これからの函館で自分らしく生きるための 資質・能力の検討と授業づくり （一時間ごとの授業に焦点を当てて）
2年次 令和２年度	これからの函館で自分らしく生きるための 資質・能力を育む授業づくり （単元を通して資質・能力を育む）
３年次 令和３年度	これからの函館で自分らしく生きるための 資質・能力を育む授業づくり （年間を通して資質・能力を育む）

研究の目的

1. 本校で育成を目指す資質・能力（これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力）を検討し，本校の職員で共通理解を図る。
2. これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力を踏まえて授業づくりを行う。

研究の方法

1　これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力を検討

①職員で現在の函館と将来（10年後）の函館について協議

- 現在の函館はどのような町なのか，これからの函館はどのような町になっていくのかについて，人口，自然，産業，歴史などの視点から協議した。
- 地域の方々と「函館の将来を考えるディスカッション」を行い，「これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力」について地域の方々と一緒に検討した。

地域の方々とのディスカッション

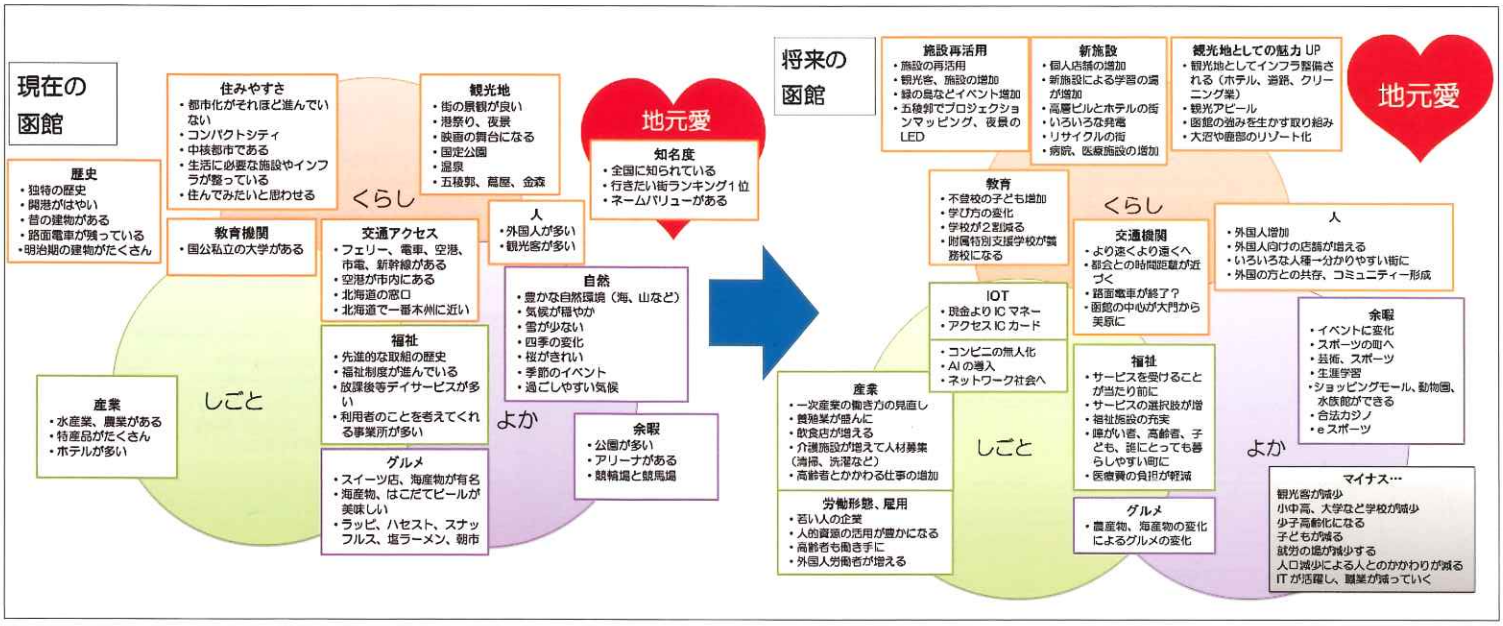


図１　本校職員が検討した現在の函館と将来(10年後)の函館

②これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力を各学部で検討及び整理

- 学校教育目標と図１を踏まえて，本校の児童生徒に将来の函館でどのように生活してほしいか，そのために現在身に付けさせたい力は何か，その力を育成するためにどのような授業が考えられるかを職員一人一人が考えた。
- これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力について，本校の教育課程に合わせ「くらし」「しごと」「よか」の視点から学部ごとに検討し，整理した。

表１　これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力

くらし			
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力，人間性等
小学部	身近な地域(学校・家庭)で生活するために必要な基礎的・基本的な知識・技能(基本的生活習慣など)を身に付ける。	身に付けた知識・技能を設定された環境の中で活用しながら，思いや要求を伝えたり，表現したりする。	身近な地域(学校・家庭)に関心をもって，自分のことに取り組んだり，身に付けた力を発揮しようとしたりする。
中学部	地域で生活するために必要な知識・技能(基本的生活習慣，公共施設や交通機関の利用の仕方など)を身に付ける。	身に付けた知識・技能を活用しながら，自分でできることを生かし，自分なりに伝えたり，表現したりする。	地域に関心をもって，自分のことに主体的に取り組んだり，身に付けた力を生活や学習に発揮しようとしたりする。
高等部	地域で自立して生活するために必要な知識・技能（人とかかわる力，情報活用，情報の取捨選択する力など）を身に付ける。	身に付けた知識・技能を活用しながら，自分のできること，できないことに気付き，解決や目標の達成に向けて考え，判断したり，表現したりする。	自分の将来の生活をイメージし，家族や地域の人々とやりとりをしながら，生活上の様々な事柄に結び付けて考え，工夫したり成し遂げようとする。

しごと			
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力，人間性等
小学部	様々な体験や経験を通して，設定された課題を解決するために必要な基礎的・基本的な知識・技能(一定時間取り組む，相手に要求を伝える，読み書き計算，道具の操作など)を身に付ける。	身に付けた知識・技能を生かし，学校・家庭で役割を果たしたり，手伝いをしたりする。	得意なことに意欲的に取り組んだり，新しいことにも興味・関心を広げたりする。
中学部	様々な体験や経験を通して，将来の職業生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能(確実性，持続性，巧緻性，仕事と報酬の関係，自分の役割，読み書き計算など)を身に付ける。	身に付けた知識・技能を活用しながら，自分のできることを生かしたり，良さや得意なことを発揮したりして，自分なりに表現する。	働くことに対する意欲や関心を高め，仲間と協力しながら主体的に学習に取り組もうとする。
高等部	将来の職業生活に必要な知識・技能への理解を深め，身に付ける。	将来の職業生活を見据え，課題を設定したり，解決策を考え，判断したり，表現したりする。	よりよい将来の職業生活を目指し，他者とともに実践的な態度を培おうとする。

よか			
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力，人間性等
小学部	多様な余暇活動を経験しながら，自分の好きなことや好きなものを見つける。	身近な大人や仲間とかかわり合いながら，設定された環境の中で取り組んだり，共有したりする。	余暇を過ごす楽しさや喜びを感じながら，自分の好きなことを見つけたり，広げようとしたりする。
中学部	多様な余暇活動を経験しながら，自分に合った余暇を見つけたり，興味・関心を広げたりする。	仲間とかかわり合いながら，楽しみ方を工夫したり，自分の思いや考えを表現したりする。	自分なりに余暇を過ごす楽しさや喜びを感じながら，余暇活動を充実させようとする。
高等部	多様な余暇活動を経験しながら，自分に合った余暇を見つけるとともに，社会生活における地域資源の活用についての理解を深める。	活動のよさや楽しさを自分なりに見いだしたり，楽しみ方を工夫したり，様々な方法で自分の思いや考えを表現したりする。	地域資源を活用しながら，自分なりに余暇を過ごす楽しさや喜びを感じ，充実した生活を送ろうとする。

2　「これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力」を踏まえた授業づくり

授業づくりにあたっては，本校で育成を目指す資質・能力を育むことを目指し，

- 前年度までの研究で取り組んできた授業づくりの成果（資質・能力の３つの柱に基づいた目標設定，計画的な観点別学習状況の評価，支援の見直し）をベースとした。
- 本校職員と地域の方々で協議した「将来の函館」についての見通しをもって，授業づくりを行った。

本校で育成を目指す資質・能力を育むことで，学校教育目標に迫り，児童生徒がこれからの函館で自分らしく生きる姿へとつながっていくものと考えた。

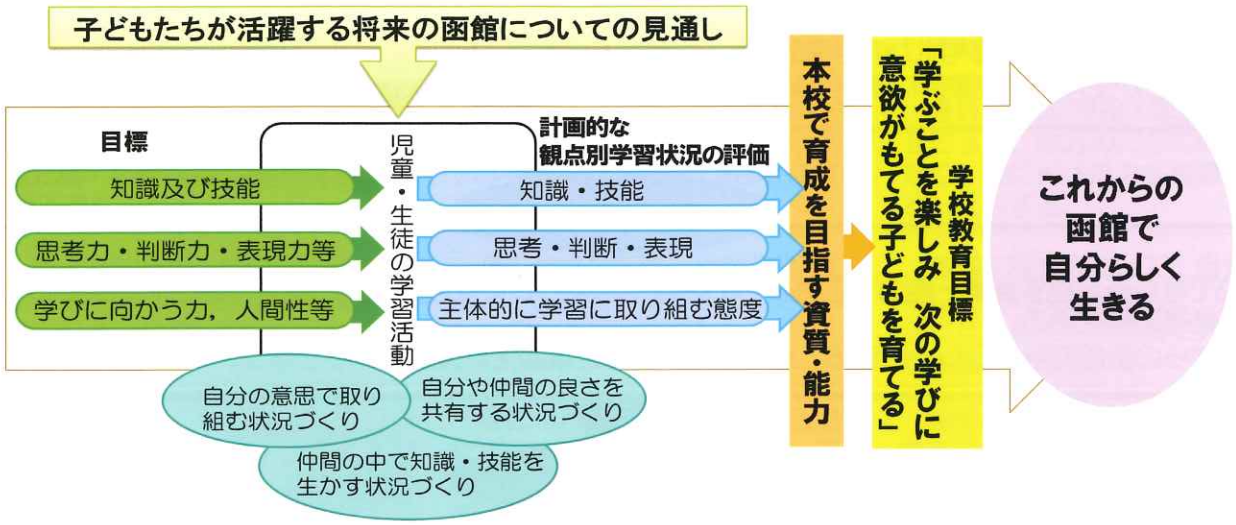
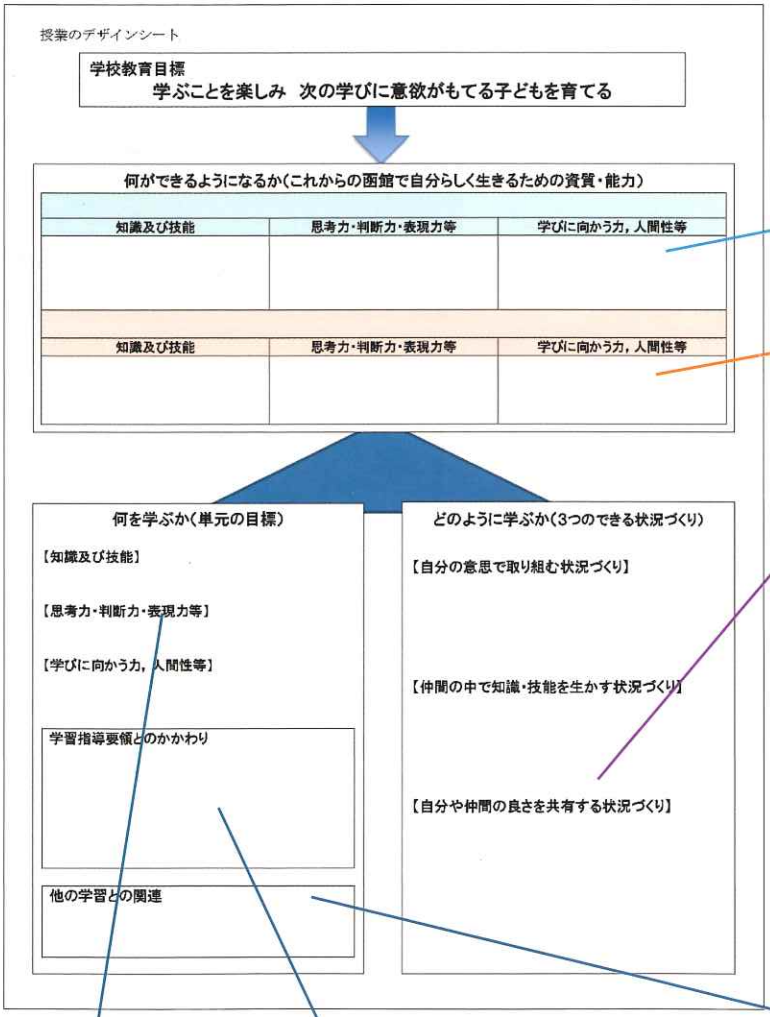


図２　これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力を育むための授業づくり

＜授業のデザインシート＞



- 学校教育目標と本校が検討した育成を目指す資質・能力とのつながりをより意識できるように，授業のデザインシートを作成して授業づくりを行った。

各学部におけるこれからの函館で自分らしく生きるための資質・能力を記載

指導の形態におけるこれからの函館で自分らしく生きるための資質・能力を記載

単元の中で設定する「３つのできる状況づくり」を記載

※3つのできる状況づくり
児童生徒が自ら学び，仲間と高め合うことを目指し，授業の中に「自分の意思で取り組む状況」，「仲間の中で知識・技能を生かす状況」，「自分や仲間の良さを共有する状況」の3つを設定している。この3つのできる状況は，各学部において段階的に設定している。

	小学部	中学部	高等部
自分の意思で取り組む状況づくり	興味・関心をもつ状況づくり	目的を達成しようと取り組む状況づくり	経験を生かして自己決定する状況づくり
仲間の中で知識・技能を生かす状況づくり	仲間と一緒に知識・技能を広げる状況づくり	仲間と一緒に知識・技能を活用する状況づくり	仲間と協力・協働する状況づくり
自分や仲間の良さを共有する状況づくり	自分や仲間の良いところに注目する状況づくり	仲間と共に達成感を味わう状況づくり	互いの良いところを認め合える状況づくり

他の学習との関連
資質・能力を育むために関連する他の指導の形態や単元名を記載

単元の目標
３観点で設定

学習指導要領とのかかわり
各教科等の学習内容を記載

小学部の実践　わくわくタイム（各教科等を合わせた指導）
「ピカピカ大作戦！バイキンくんをやっつけよう！」

これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力との関連

本単元では，今まで身に付けてきた掃除のスキルを生かして，仲間と一緒にバイキンくんが汚した教室をきれいにして，バイキンくんを倒す活動である。単元を通して，様々な掃除道具の使い方を学びつつ，仲間と協力したり，仲間と一緒に目標を達成したりする経験を積んでほしいと考える。また，自分たちが取り組んだ活動が人から感謝されることで，人の役に立つ喜びを感じてほしい。

これからの函館は，魅力ある観光地として多様な人々を受け入れるために，きれいな町づくりが求められている。児童が，地域の中で役割を発揮し，きれいな町づくりに貢献したり，地域の方々とつながりをもちながら豊かに生活できることを願っている。

単元計画

次	時	学習概要
一	1・2	仲間と一緒に掃除道具を使って，教室をきれいにしてバイキンくんを倒す。
二	3・4	教師にお願いされてランチルームをきれいにしてバイキンくんを倒す。

本時の目標

【思・判・表】	教室をきれいにしてバイキンくんを倒すために，掃除道具を選んだり，自分なりに工夫したりしながら活動する。
【学，人】	仲間や教師と一緒に教室をきれいにしてバイキンくんを倒すために，意欲的に活動したり，最後まで取り組んだりする。

※【思・判・表】→【思考力・判断力・表現力等】
※【学，人】→【学びに向かう力，人間性等】

学習展開　4／4　（抜粋）

児童の活動	指導及び支援	活動の様子
□前時の振り返りをする。	□前時の活動の様子をテレビに映し，上手にできたことを確認し，本時の活動に見通しをもてるようにする。	
□掃除道具の使い方を確認する。（座敷ほうき，自在ほうき，ちりとり，モップ，雑巾）	□掃除道具の使い方の手本となる映像をテレビに映し，掃除道具の持ち方や使い方を確認する。	
□教師から連絡を受けて，ランチルームへ移動する。	□バイキンくんに汚されたランチルームの様子をテレビに映し，活動の意欲を高める。	
□掃除道具を使って，教室に散布している新聞紙を全て集めて，バイキンくんのゴミ箱に捨てる。	□新聞紙のゴミ(300個)，バイキンくんのごみ箱，落書き，足跡の汚れ，ゴミを集める場所を示した枠を準備する。	
□床や窓に描かれた落書きや足跡の汚れを雑巾掛けできれいにする。 □倒れている机を直し，復元する。	□途中で掃除道具を変えても良いことを伝えたり，言葉がけや手本を示したりしながら活動を促す。	
□本時の振り返りをする。	□教室がきれいになったことを伝え，感謝の気持ちを伝える。	

実践を振り返って

本単元を通して，様々な掃除道具の使い方を学びつつ，仲間と一緒に教室をきれいにすることができた。また，自分達が取り組んだことが人の役に立ち，感謝される経験も積むことができた。さらに，他の学級から依頼を受けて掃除をしたり，児童玄関の汚れを自分から雑巾掛けしたりするなど，課題の一つであった自分から教室などをきれいにしようとする気持ちも芽生えつつあると考える。

今後は，学校や家庭のみならず，地域の中で学習の成果を発揮する場面を設定していきたい。

中学部の実践　体育活動（各教科等を合わせた指導）
「ボッチャに挑戦！」

これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力との関連

本単元のボッチャは，東京オリンピック・パラリンピックの正式な種目となっている。函館においては，ティーボールの大会が開催されたり，地域でボッチャの活動が行われたりと障害者スポーツの関心が高まってきている。ボッチャの学習を通して，誰でも楽しめるスポーツに触れることで他の競技にも目を向け，様々なスポーツがあることを知っていく中で，自分にとって楽しめるスポーツや体を動かすことへの興味・関心を高めていきたいと考える。また，今年のオリンピック・パラリンピックに意識を向けながら，スポーツに興味・関心をもって取り組んだり，応援したりしながら，将来のスポーツライフにおける一つの余暇や健康の保持につながる取り組みになってほしいと考え，本題材を設定した。

単元計画

次	時	学習概要
一	1	地域の人材を活用しながらルールを知る。
二	2 3	狙った場所に投げたり，近付けたりする練習をする。
三	4 5	より得点を獲得するためにチームの仲間と作戦を立てて，投球する。
四	6 7	地域の人と対戦したり，チームを組んだりしてボッチャを楽しむ。

本時の目標

【知・技】	ボッチャのルールを理解し，自分が狙った場所にボールを転がす。
【思・判・表】	ボールの配置を見て，より得点を得るためにボールの投げ方を考えたり，工夫したりして仲間に表現する。

※【知・技】→【知識及び技能】
※【思・判・表】→【思考力・判断力・表現力等】

学習展開　5／7　（抜粋）

生徒の活動	指導及び支援	活動の様子
□ルールの確認 ・得点の仕方や投球の順番などについて確認する。	□ボッチャのルールについて視覚的に示し，得点を得るためのポイントを確認したりする。	
□ゲームをしよう ①チームの投球する順番を決める。 ②ジャックボールを投げる。 ③審判の色を見て順番を守って投球していく。 ④各チームの４球目以降，ボールの配置を見て，作戦カードを選び，得点を多く得るための投球方法を伝え合う。 ⑤投球者は作戦を選択し，投球する。 ④両チーム３人×２球→６球を投げる。 ⑤得点を確認する。	□審判のレフェリーパドルを見てどちらのチームが投球するかを確認させたり，順番ボードを見て誰が投球したりすることを確認できるようにする。 □必要に応じてボール配置について，ボードを使いながら，状況を説明したり得点を多く得るための手掛かりを言葉がけしたりする。 □狙ったところにボールを投げることができたときは称賛する。	
□結果発表 ・それぞれのチームの得点を発表し，優勝したチームは優勝カップを受け取る。	□表に点数を書き込み，勝ち数や得失点差を示し，優勝したチームを発表する。また，チームで協力しながら得点につながったことを称賛する。	

実践を振り返って

本単元を通して，ボッチャというスポーツを知り，仲間とルールを守りながら楽しむことができた。仲間と戦術を話し合いながら学習を積み重ねていくことで，自分の意図を仲間に伝えることや自分では気付くことができなかった発想を取り入れるなどしながら，チームの仲間と協力しながら取り組むことができた。今後においては，学んだことを地域に広げ，つなげていくために，地域の方と大会等を通して一緒に交流するなど地域資源を活用しながら学習を進めていき，様々な人とスポーツライフを楽しもうとする態度を育てていきたいと考える。

高等部の実践　附特タイム（各教科等を合わせた指導）
「身分証明書をつくろう」

これからの函館で自分らしく生きるための資質・能力との関連

本単元では，身分証明書を作る学習を通して，将来の生活の具体的なイメージと関連付けながら，社会制度への理解を深めたり，社会制度を活用するための手続きについて体験的に学んだりすることで，主体的に生活しようとする力を身に付けることをねらいとしている。生徒一人一人にとって，今回の単元が「自分の生活に関すること」であるという意識を向上させるため，マイナンバーカードを実際に申請する手続きを体験することに加え，マイナンバーカードの利便性やどの場面でどのように活用できるかを考えたり，個人情報を携帯する危険性や管理方法について学んだりする活動を設定する。この学習を通して，卒業後，自分の情報や安全を守りながら，社会とのかかわりを保ちつつ，自分の思い描く生活の実現に向けて意欲的に社会に参画する力を身に付けてほしい。

単元計画

次	時	学習概要
一	1	身分証明書の種類と必要な場面を知る。マイナンバーカードの活用方法と申請方法，適切な取り扱い方法について知る。
二	2	申請に必要な顔写真を撮る。申請書に記入をしたり，送付用封筒を作成する。
三	3	マイナンバーカードの申請書をポストに投函する。申請から交付の流れを知り，どのような準備が必要かを考える。
四	4	市役所へ行き，交付されたマイナンバーカードを受け取る。

本時の目標

【知・技】　申請に必要な事項を記入する。

【学，人】　自主的に写真を選んだり申請書を記入したりする。

※【知・技】→【知識及び技能】
※【学，人】→【学びに向かう力，人間性等】

学習展開　2／4　（抜粋）

生徒の活動	指導及び支援	活動の様子
□申請書の内容の確認 ・申請書には氏名や住所の記載，顔写真の貼付が必要であることを知る。	□生徒とのやりとりを通して前時の内容について振り返り，申請書を配布する。	
□衣類の選択・着用 ・男子は好みのネクタイとジャケットを，女子は好みのブラウスとジャケットを選択して着用する。 ・鏡でコーディネートと身だしなみを確認する。	□自分に合っているか，組み合わせとして違和感はないか，その衣類を選んだ理由を考えながら衣類を選択するように促す。 □着用後，鏡でコーディネートと身だしなみを確認するように促す。	
□顔写真の撮影 ・身だしなみが整った生徒から写真撮影をする。 □顔写真の選択 ・撮影した写真を見比べ，１枚選ぶ。	□生徒を座らせ１人あたり３枚の写真撮影をする。 □撮影した写真をモニターに提示して，生徒の選択を促す。	
□申請書の記入 ・申請書の項目に合わせて記入する。	□申請書の項目を確認しながら記入するように促す。個別に住所を提示し，正しく記入できるようにする。	
□封緘 ・申請書を封筒に入れ，のりで封緘する。	□生徒と一緒に確認をしながら封緘する。	

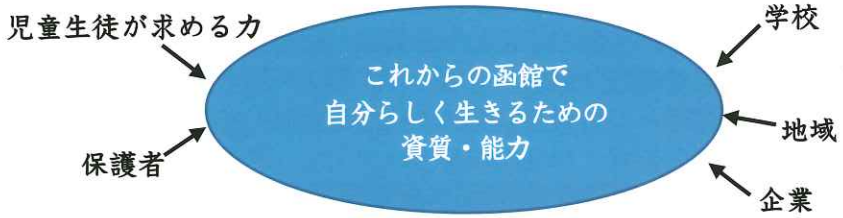
実践を振り返って

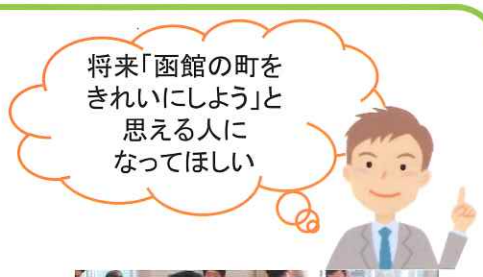
本単元を通して，生徒一人一人が身分証明書を取得することや，それを活用することについて，より具体的なイメージをもつことができた。また，社会制度への理解を深め，卒業後の生活において社会制度を活用するための手続きを体験的に学んだことで，主体的に生活しようとする力を身に付けることができた。今後は，生活の主体は自分であるという意識をさらに向上させてほしい。また，社会制度を活用したり，自分でサービスを選択・決定したりする力を身に付け，自身の生活をより豊かにしていこうとする意欲や態度を涵養してほしい。

3　研究のまとめ

研究の成果と課題

○　函館の将来像を見据えながら，学校だけではなく地域の方とともに考えることで，本校で育成を目指す資質・能力が明確になってきた。





○　本校で育成を目指す資質・能力を踏まえ，地域を意識した授業実践ができてきた。

▲　本校で育成を目指す資質・能力を意識して日々の授業を計画すること，地域を意識した単元構成の在り方を検討することには課題がある。

▲　単元のねらいを達成するために，他の学習と関連付いた授業を計画する必要がある。

▲　児童生徒にとって深い学びが実現できているか評価する必要がある。

次年度に向けて

①　<u>各指導の形態で育む資質・能力の検討</u>

- 「くらし」「しごと」「よか」の各区分の資質・能力を受け，各指導の形態で育む資質・能力を検討し，日々の授業でより意識できるようにする。
- 本校で育成を目指す資質・能力についても，「児童生徒が求める力」「保護者」が考える資質・能力を含めて見直していく。

②　<u>単元デザインシートを活用した単元づくり，授業改善</u>

- 地域と連携・協働する視点を盛り込んだ単元づくりに取り組む。

Ex.）**地域資源の活用**

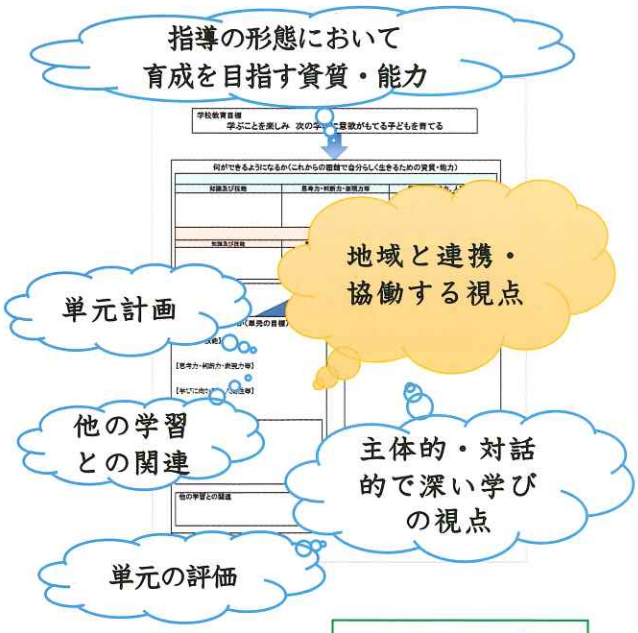
地域活動「元町散策」

地域への発信

くらすタイム「函館の魅力を伝えよう」

- 単元のねらいを達成するために他の学習で取り組んでいることについてまとめる。
- 単元における主体的・対話的で深い学びの姿を明確にする。
- 単元デザインシートを基に，実践，評価を行う。

単元デザインシートの構想



研究の詳しい内容については，右のQRコードからご覧ください。

QRコード

【問い合わせ先】
北海道教育大学附属特別支援学校
〒041-0806　北海道函館市美原3丁目48番1号　　電話　(0138)46-2515
FAX　(0138)47-8729
URL　http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_tokushi/